



なん こう がい か ちょう しょう
軟口蓋過長症ってなに?

どんな
病気?

口の奥の構造に異常があり、呼吸がしにくい進行性の病気。

軟口蓋は、口の中の上あごからのどの奥に伸びたやわらかい部分で、鼻の中(鼻腔)と口の中(口腔)を隔てています。この軟口蓋が通常よりも分厚く長いことで、呼吸が妨げられておこる呼吸器系の疾患です。先天的なものがほとんどで、子犬のころから症状が出るケースも。

おもな
症状

進行性のため、
症状が徐々に悪化する傾向があります。

呼吸の異常

- ガーガー、ズーズーといった低音の呼吸音がある
- 口を開けて呼吸することが多い
- 散歩時や興奮時に口を開けてガーガーいって苦しそう
- 体全体を使って一生懸命に呼吸する
- 寝ているときにいびきをかく
- 暑さに弱くすぐにパンティングする

様子・しぐさ

- 伏せて冷たい床で体を
- カー、ペットと吐くようなしぐさが多い
- 冷やそうとすることが多い
- 動くのを嫌がる

そのほか、吐き気やゴハンや水を飲みこむときにむせるなどの症状が出ることもあります。

よく見られる犬

代表的な犬種は、マズルの短い短頭種で、先天的に軟口蓋が分厚く長い傾向があります。

- フレンチ・ブルドッグ、バグ、ボストン・テリア、ペキニーズ、ボクサー、シー・ズーなどの短頭種
- キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、コッカー・スパニエル、ヨークシャー・テリア、チワワなど



早期発見
ポイント

いびきや呼吸の荒さを「犬種の特徴だから」とスルーしない!

大きないびきやガーガーという呼吸の異常は病気のサインです。短頭種の特長だと考えずに早めに受診をするようにしましょう。



治療
法

外科手術で軟口蓋を切除するか、対症療法で対応します。

外科手術

軟口蓋の長さや厚みを正常に近づける手術
軟口蓋を切除し、粘膜を縫合します。近年、軟口蓋の厚みも重症度に関係しているといわれているため、厚みもできるだけ薄くします。

対症療法

ダイエットやネブライザー治療による緩和療法
体重増加や暑さ、過度な興奮などが悪化要因のため、ダイエット、夏場の外出を避けるなどが症状の緩和につながります。また、のどの腫れには、ネブライザー治療で対処。

治療とともに日々気をつけること

太らせない 興奮させない

室内はいつも涼しく

夏場の散歩を避ける

とくに短頭種は、鼻の穴や鼻腔が狭い、舌が厚いなどの構造上の問題を複数抱え、手術しても呼吸の負担がゼロにならないことも。体重を適正に保つ、暑い日には外に出さない、高温多湿の時期は一日中室内を涼しくするなど気をつけましょう。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**